

大学・研究から見た携帯電話プラットフォームの将来像

矢野 幹樹

Motoki Yano

名古屋大学大学院 工学研究科 電子情報システム専攻 河口研究室

大学での研究内容

- ユーザの状況に応じたモバイルアプリケーションの推薦に関する研究

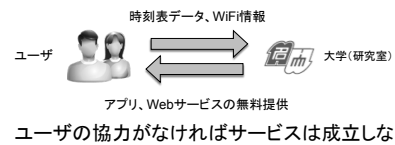


- 位置情報活用アプリの開発
 - iPhone向け時刻表アプリ「駅.Locky」など

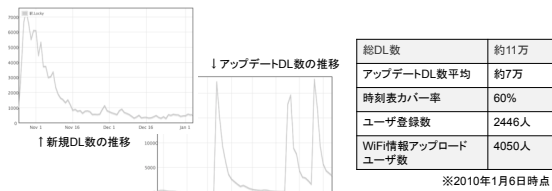


駅.Lockyの開発で感じたこと(1)

- 駅.Locky
 - 無線LAN位置推定を用いた時刻表アプリ
 - 発車までの時間をカウントダウン形式で表示
- サービスモデル
 - 時刻表データ、WiFi情報をすべてユーザに提供してもらう



駅.Lockyの開発で感じたこと(2)



10万人のユーザが集まったことで、サービスの循環が成立

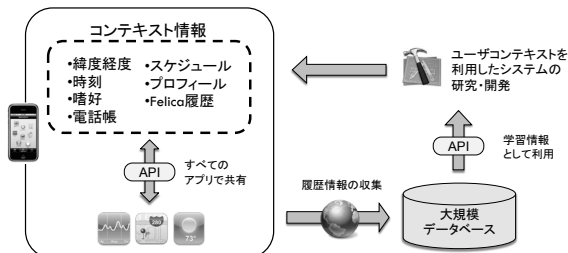
- 研究から見たAppStoreの可能性
 - AppStoreを通して研究成果を世に広めることができる
 - アプリを利用してもらうことで大勢のユーザから研究のための情報を収集可能

研究を通じての問題意識

- 推薦システムには大量の学習情報が必要
 - どんな状況でどのアプリを利用したか? など
- ↓
- 端末で利用可能なコンテキスト情報が少ない
 - セキュリティ上の問題による規制
 - 情報の収集には専用のアプリを利用してもらわなくてはいけない

携帯電話プラットフォームに望むこと

- アプリ間でユーザコンテキスト情報を共有でき、自由に利用可能な開発環境の提供



将来像

- コンテキストアウェア技術の進歩による、ユーザコンテキストを活用した様々なサービスの登場

ライフログ

- 健康管理
- ブログやTwitterへの自動投稿

レコメンド

- 商品推薦
- アプリ推薦
- Webページ推薦
- 楽曲・映像推薦

SNS

- 似た人検索
- 出会い系サービス

ゲーム

- キャラクター自動生成
- 状況依存型ゲーム

ナビゲーション

- 目的地予測
- 嗜好に基づく経路探索

その他

- 行動予測による情報のキャッシング
- ユーザに応じた情報サイトの自動生成